



システムの信頼性について

2019年10月9日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

1. システムの信頼性について

第7次NACCSの信頼性については、以下のとおり、現行システムと同等以上を確保する。

区 分	概 要	備 考
1. 個別検討事項	システムの信頼性について	
2. 現行仕様	現行システムにおける信頼性要件 ・稼働率：99.99%以上 ・業務トランザクション処理時間：平均 1 秒以内 ・24時間365日稼働（定期保守時間を除く）	
3. 見直しの経緯 (利用者の要望等)	官民共同利用の基幹システムとして、安定性・信頼性の高いシステムを実現する。	
4. 次期仕様	第7次NACCSにおいても、現行システムと同等以上の信頼性要件を確保する。	
5. その他		

2. 第6次NACCSのハードウェア構成

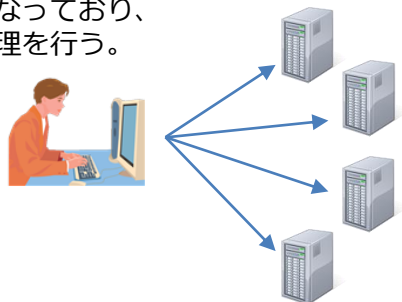
第6次NACCSのハードウェア構成

オープン系サーバを中心として構成している。
各サーバについては、信頼性とコストを考慮し、「全機現用構成」または「デュプレックス構成」のいずれかを採用して多重化しており、安定性・信頼性を確保している。

➤ 全機現用構成

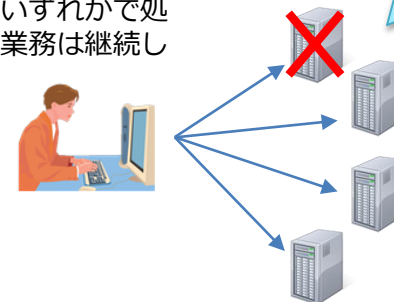
通常時

各機器は並列の関係となっており、複数台のいずれかで処理を行う。



故障時

故障していない機器のいずれかで処理を行う。そのため、業務は継続して実施される。



台数を増やすことにより、稼働率を限りなく100%に近づけることが可能

➤ デュプレックス構成※

通常時

主系で処理を行い、待機系は常に起動状態を確保。



主系



待機系

故障時

主系の機器が故障した際に、自動で系の切替を行い、待機系を主系として利用し処理を行う。



待機系→主系

※ 機器有効活用の観点から、一部のサーバにおいては異なる機能を相互にスタンバイするような方式を採用している。

第7次NACCSの基本的なシステム構成

- ・ 機器の一部故障時においても、システム構成を多重化することによって、業務処理を継続して実施可能とする。
- ・ 今後の更なる業務量増加に伴う処理起動改善に向けて、稼働中に柔軟な変更が行えるシステム構成を検討する。
- ・ メインセンターにおける大規模災害・大規模障害発生に備え、現行システムと同様に引き続きバックアップセンターを設置する。



第7次NACCSにおいても、現行システムと同等以上の信頼性要件を確保する。